



2009 ~ 2010 年度
R I テーマ

The Future of Rotary Is in Your Hands
ロータリーの未来はあなたの手の中に

国際ロータリー会長 ジョン・ケニー (国籍・スコットランド)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12 時 30 分
ところ トキハ別府店 7 F ぼたんの間
TEL 23-1111
事務所 別府市西野口町 1 番 1 号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
http://www.beppu4rc.jp/chuo/
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	近藤 賢司	理事	大野 雅治	役員	会 長	近藤 賢司	S A A	大野 雅治
◇	木村 きぬえ	◇	鳴海 淳郎	副会長	木村 きぬえ	直前会長	平野 英壽	
◇	亀井 孝	◇	後藤 隆	幹 事	高宮 勝美			
◇	村津 忠久			会 計	河村 貴雄			

VOL. 22 -26
2010 年 2 月 2 日

第 989 回 例会

会報委員長 森 宗明

◆点 鐘 12 : 30

◆体 操 自律神経強化体操

◆国 歌 君ヶ代

◆R S 奉仕の理想

◆唱 歌 雪山讃歌

◆B. G. M 「宗次郎こころの歌」より
カチューシャの唄
ゴンドラの唄
時計台の鐘 他

◆ゲ ス ト パントウシャート・シリパンさん
(米山奨学生)

◆ビジター 牧野徹朗 (別府東RC)

◆出席報告

委員長 梅津ヤヨイ

本	会 員 総 数	19 名
日	出 席 者	15 名
の	事前メイクアップ	0 名
出	理 事 会 承 認	0 名
席	出 席 免 除	2 名
	欠 席 数	2 名
	出 席 率	88.24 %
前	出 席 率	83.33 %
々	事後メイクアップ	0 名
回	理 事 会 承 認	0 名
の	出 席 免 除	1 名
訂	修 正 出 席 率	88.89 %
正		
1/19		

連 続 - 回
通 算 737 回 100 %

・メイクアップ

事前
事後 河村 (別府)
欠席 河村、大島
出席免除 鳴海、溝部



会長の時間

会長 近藤 賢司

先々週は鳴海先生が、先週は溝部先生が、そして今週は栂田先生が出席して、例会場が賑やかになりました。そして今週の栂田先生の楽しい卓話を期待しています。

今日は世界理解月間です。我が別府市は留学生比率において、首都東京を上回り、日本一留学生の人口に対する比率が多い都市となりました。要するに外国人と触れ合う機会が多いわけです。そこで私達別府中央RCも今期中に、現在、別府市内で活動をしている留学生の団体に少しでもバックアップできることはないかと模索しているところです。近いうちに国際奉仕委員長と一緒に諸団体と会い、次年度にこの奉仕活動が継げられるように道筋を作っていきたいと思えます。

出席義務 次年度ガバナー補佐、次年度会長・幹事、管理運営・広報・会員増強・奉仕プロジェクト・R財団・米山奨学 各部会に該当する委員長
登録料 5,000円
(次年度ガバナー補佐・次年度地区委員長は不要)

4. 1月27日(水) 13:40～近藤賢司会長が別府市内の他3クラブ会長と共に別府市役所へ赴き、友永哲夫副市長へ当クラブ全会員よりご協力いただいた「別府市光町火災お見舞い義捐金」を贈呈してまいりました。
5. 本日例会終了後、「第8回定例理事・役員会」を開催致します。

幹事報告

幹事 高宮 勝美

—世界理解月間—

1. 本日の卓話
「アラカルト」 栂田健治会員
2. 本日のゲスト
パントウシャート・シリパンさん
(米山奨学生)
3. 「2010—2011年度国際ロータリー第2720地区地区協議会」開催のお知らせ
日時 2010年3月28日(日曜日)
10:00～16:30
場所 別府大学 別府キャンパス
10:40～ 「次年度RIテーマと運営方針について」
ガバナーエレクト
木下光一氏
12:50～ 講演
第2800地区バスターガバナー
藤川享胤氏
14:30～ 部門別協議会

6. 例会変更のお知らせ
大分中央RC 2月10日(水)の例会は、定款第6条第1節(C)に基づき休会
中津RC 2月10日(水)の例会は、HC100%例会の為 同日18:30～割烹嘉乃に時間・場所変更
大分臨海RC 2月15日(月)の例会は、大分城西RCとの親睦合同例会の為 同日18:30～大分全日空ホテルオアシスタワーに場所変更
7. 次週例会の予定
「会員卓話」森 宗明会員
「会員コラム」亀井 孝会員
8. 本日の回覧
①「別府市内4RC合同例会」出・欠席
9. 本日の配布
①週報No.988
②ロータリーの友2月号
③「抜粋のつづり」その六十九

○近藤会長

シリバンさん、お帰りなさい。久し振りに元気な顔を見て安心しました。

栞田先生、今日も楽しい卓話を期待していますよ。

○森会員

先週金・土・日は鹿児島、明日・明後日は東京、そして土・日は宮崎、次の週の金・土はまた東京…。貧乏暇なしとはよく言ったもので、床屋に行く1時間がない。ありがたい事です。

○大野会員

先週は欠席してすみません。しいたけ作り、頑張っています。

牧野様、よくいらっしゃいました。今後ともよろしくお祈りします。

○村津会員

「第23回・べっぷ鶴見岳一気登山大会」の参加者募集が、昨日から始まりました。

今年から韓国からの一気登山ツアーも加わります。

エントリーが3000人を超しますことと、当日の晴天を祈念してスマイル。

○栞田会員

久々に来ました。そうです、卓話です。ご迷惑おかけします。

「学ぶ」について

私たちがものを学ぶとき、私たちは師を選びます。私たちがこれから学ぼうとしている技芸や学問についてはたくさんの専門家がいて、私たちはその中から「自分の師」を選ばなければならない。でも、私たちにはどの人が私の師にふさわしいのかわかりません。というのも、その技術や知識についてわからないということが私たちがそれを学びたいと望んでいる当の理由だからです。

ほとんどの場合、私たちは学びたいと望んでいるものについて重要なことを何も知りません。「どうでもいいことを少しだけ知っているが、肝腎なことは何も知らない」というくらいの無知のレベルにいるときに、ものを学ぶ動機はもっとも高い。ですから、「自分の師」を選ぶ時に観客的に見てもっともすぐれたものを採用するということをしていません。そして、私たちがそれがおかしいとは少しも思わない。師に就いて学ぶというのはそういうことだからです。学び始めるためには、「なんだかわからないけれど、この人についていこう」という清水の舞台から飛び降りる覚悟が必要だからです。このことについては私たち日本人はどうやら例外的な本能に恵まれている。そして、これは同時にすぐれて宗教的な態度でもあります。

武士道における師弟関係でも同じです。弟子には師を正しく選択したかどうかについて挙証が求





められません。弟子に師を格付けできる能力があらかじめ備わっているはずがないと考えるからです。だから、誰を師としてもよい、師が何も教えてくれなくても、ひとたび「学び」のメカニズムが起動すれば、弟子の眼には師の一挙手一投足のすべてが「学び」となる。兵法奥義でいえば、「あなたはそうすることによって私に何を伝えようとしているのか」と師に向かって問うことそれ自体であり「兵法極意」とは学ぶ構えのことである。

「何を」学ぶかということには二次的な重要性しかない。重要なのは「学び方」を学ぶことだからです。

ひとたび「学び方」を学んだものはそれから後、

どのような経験からも、どのような出会いからも、豊かな知見を引き出すことができます。賢者はもちろん、愚者からも悪人からもそれぞれに豊かな人間的知見を汲み出すことができます。弟子は師が教えたつもりのないことを学ぶことができます。これが学びの妙であります。

私たち日本人は「学ぶ」ことについて世界でもっとも効率のいい装置を開発した国民です。辺境の列島住民が「最高の効率で学ぶ」技術を選択的に進化させたのは、ある意味では当然なことだからです。辺境民がその地政学的地位ゆえに開発せざるを得なかった「学ぶ力」が日本文化とその国民性に存在する。

会員コラム

森園 伸也

平成22年になって早くも1月が終わる。年々、月日が過ぎるのが早く感じるのは私だけではないだろうが、今年は何か1つでもこれが出来たと自覚できる年にしたいと思っている。それは今年が私的にも会社的にも節目の年になるからだ。私的には40歳『不惑』という年齢になってきた。会社は20周年と『成人?』の年であるからだ。学生のころに論語で「四十にして惑わず」と習った時には40歳は遙か未来で、私の目には幻想だったかもしれないが大人は大人に見えていた。自分が40歳

になってみて、自分自身や周りの同世代をみると現実が見えてきたのか、大人が少なくなったと思う事が多くなった。私の中に理想の大人像があるわけではないが、日々の仕事や人生の中で迷うことの多い私には『不惑』という言葉はそそられる言葉だ。『不惑』になるためには信念が必要だろうと思うが、今の私にはもちろん無い。こんな歳になって考えるのは遅いのかもしれないが、節目の年としてじっくり考えてみたいと思っている。

次回は、亀井孝会員です。